

キャッシュレス時代における 家庭の金銭教育 キーワードは「親子で学ぶ」

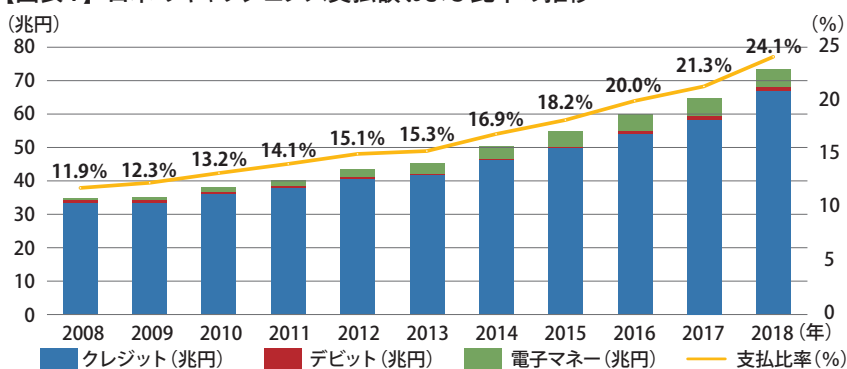
第23回

講師：高木典子

神奈川県金融広報アドバイザー

このコーナーでは全国で活躍している金融広報アドバイザーによる誌上セミナーを行います。今回のテーマは「キャッシュレス時代における家庭の金銭教育」です。キャッシュレス化が急速に進む中、「見えないお金」の知識や価値観を家庭で子どもに学ばせるポイントについて高木典子アドバイザーにうかがいました。保護者の悩みや疑問を少しでも解決できればと思います。

【図表1】日本のキャッシュレス支払額および比率の推移



(出所) 経済産業省「キャッシュレスの現状及び意義」を基に作成

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/cashless/image_pdf_movie/about_cashless.pdf

加速するキャッシュレス化の 普及による金銭教育への影響

国民生活センターによると多重債務の相談件数は、減少傾向にあるとはいえ毎年度2万件を超えています。子どものうちからお金の大切さを実感させ、お金の価値や使い方を理解させる家庭の金銭教育は非常に重要です。そうした中、政府は、さまざまなキャッシュレス推進策により、日本の

キャッシュレス決済比率を、2025年までに4割程度、将来的には世界最高水準の8割をめざすとし、その決済比率は上昇し続けています【図表1】。一方で、現金を扱う機会が減る「お金の見えない化」によって、お金の使えば減るといった感覚を感じにくくなってきたと懸念する声もあります。実際、電子マネーなどのICカードを、いくらでも買える「魔法のカード」と思い、友達に見境なくおごってしまったというお子さんの話も耳にします。

自立した大人になるためには、キャッシュレスという「見えないお金」の知識や価値観を子どもに教える必要性がわかって高いと思われれます。

保護者が金銭教育に悩む「教える自信が無い」背景とは

保護者に話を聞くと、ほとんどの方が金銭教育は重要であり、キャッシュレス決済を子どもに教えることは必要と考えています。その反面、「金銭教育なんて私には無理」、「キャッシュレス決済の教え方が分からない」という保護者の声も多く聞きます。その悩みの背景には、保護者の「金融リテラシー」とITリテラシーへの自信の無さがあるのではないのでしょうか。かつては、子どもにお金の話をすることはタブーのように扱われていた

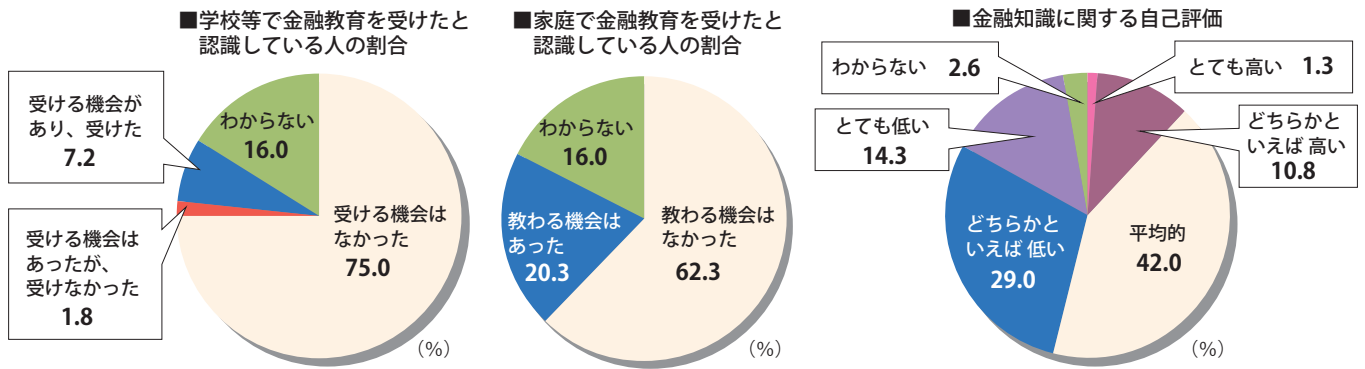
かと思えます。【図表2】の「金融リテラシー調査2019年」では、「学校等で金融教育を受けた」と認識している方はわずか7.2%、「家庭で金融教育を受けた」と認識している方も20.3%と低いのが実情です。そのため「金融知識に関する自己評価」でも、自信がある方は12.1%という低い結果になったでしょう。

キャッシュレス決済にはクレジットカードやスマートフォン決済などさまざまな手段があります。それぞれの特徴を十分に理解し使いこなすためのITリテラシーに自信がない保護者は、キャッシュレス決済を子どもにどう教えるべきなのか悩み、不安に思ってしまうようです。

保護者の体験は学びの教材分らないことは子どもと学ぶ

キャッシュレスに限らず金銭教育に自信がなく悩んでいる保護者に、私はいつも「変に気負わず、小さな子どもには普段の体験や実践していることを話すだけで十分」とお話しします。ATMで光熱費を振り込んだり、クレジットカードで買い物したり、通信販売を利用するなど、日常生活でさまざまな体験や実践をしていると思えます。それはキャッシュレス決済教育の

【図表2】金融教育に関する認識



(出所) 金融広報中央委員会「金融リテラシー調査 2019年」の結果を基に作成

立派な教材なのです。ただし、そうした体験や実践を一方的に話すだけでなく、子どもにお金の流れや価値を考えさせるコミュニケーションをとってほしいと思います。例えば「ATMにキャッシュカードを入れると、なぜ光熱費のお金を振り込めると思う？」などと問いかけたり、通信販売を利用するときに、お金の流れや商品が届く仕組みを説明するなど、キャッシュレスも現金も同じお金ということを子どもにも実感させることが大切なのです。子どもから、保護者の知らないことを質問されることもあるでしょう。そのときは「一緒に調べてみよう」と言ってみてはいかがでしょうか。学びの原動力となる好奇心や探求心を育むことにもつながると思います。

家庭でキャッシュレス教育を行うタイミングとポイント

キャッシュレスは何歳から家庭で教えるべきかという質問をよくいただきますが、キャッシュレスに限らず金銭教育において「何歳になったらこれを教える」「何年生のおこづかいはいくら」というような年齢や学年での判断を、私はあまりお勧めしません。子どもの個性と環境で判断すべきと考えます。同じ年齢でも、すでにお金の管理



をしつかりできる子もいれば、まだ計画的にお金を使えない子もいるでしょう。徒歩通学の子もいれば、電車通学で電子マネーを早く利用させた方がよい場合もあります。普段から子どもとコミュニケーションをとり、子どもの性格やお金に関するリテラシー、学校や友達関係などの生活環境を把握し、子どもの「今」に最適な学びを教えてあげてほしいと思います。

ただ、キャッシュレス決済はICカードやスマートフォンなどのツールが必要なので、そうしたツールをある程度理解できるようにしてから利用させると良いでしょう。それまでの間は、見えるお金＝現金を使わせることで、「お金は使えば減る」「お金が足りない」と欲しいものが買えない」という経験をさせることが大切です。お金の価値が分かりお金を管理する習慣を身に付けていけば、キャッシュレス

決済を使うときに、「現金と同じお金」という本質的なことがスムーズに理解できると思います。

おこづかいのキャッシュレス化の現状について

キャッシュレスを家庭で学ばせるまでの大まかなステップです。

- ①日常生活の中で、お金の流れやお金には限りがあることを教え、その価値を認識させる。
- ②おこづかいはお支払いで現金を使う体験をさせて、お金の管理の必要性を身に付けさせる。
- ③おこづかいとしてキャッシュレス決済を利用する。

家庭の金銭教育において、おこづかいの活用は最適な学びの場ですが、キャッシュレスでおこづかいを渡している方は、まだまだ少ないのが現状です。私が監修した小学生の子どもを持つ保護者を対象とした調査では、「おこづかいの渡し方」で90%以上の方が現金のみで渡しており、キャッシュレスで渡している方は、現金との併用を入れてもわずか6%でした。「今後のおこづかいにキャッシュレスを取り入れたいか」と答えた方は「取り入れた」と答えた方は30%未満という結果でした。キャッシュレスをおこづかいに取り入れていない保護者からは「現

【図表3】 おこづかいの渡し方の比較

	メリット	デメリット
現金	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にすべての店やサービスで使える お金の価値を実感しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 何に使ったか把握しにくい 現金を持ち歩くことによる盗難や紛失のリスクがある
キャッシュレス	<ul style="list-style-type: none"> 支払いが手軽で簡単 使用履歴が分かり管理しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 非対応の店やサービスがある お金の価値を実感しにくい

金の方が重みがある」「使い過ぎてしまわないか心配」という声が聞かれており、現金への根強い安心感が見受けられます。

おこづかいを「現金で渡す」のと「キャッシュレスで渡す」のとは、それぞれメリットとデメリットがあり【図表3】、その特性を理解したうえで渡し方を決めることが大切です。お金の価値が分かり、管理の習慣がある程度身に付いていれば、キャッシュレスを取り入れてもよいと思います。その

際、キャッシュレス決済が使えない場面もあるので、現金と併用するのが良いでしょう。キャッシュレス決済は、使用履歴が分かるので管理しやすく、プリペイド型を選べば使い過ぎの心配もなくなります。

そして、お金の学びの王道は「子どもにお金の経験を積ませる」ことです。キャッシュレス決済も、保護者の目が届く年齢のうちいろいろな場面で使わせた方が、正しい知識と使い方を身に付けられると思います。セキュリティ対策をしつかり行い、リスクを理解させる必要がありますが、子どもは大人が思っている以上にITリテラシーが高く、すぐに使いこなします。もし保護者自身が使ったことがないのであれば、子どもに使わせる前に自分で使ってみて、キャッシュレスの良いところや悪いところを体感してほしいと思います。

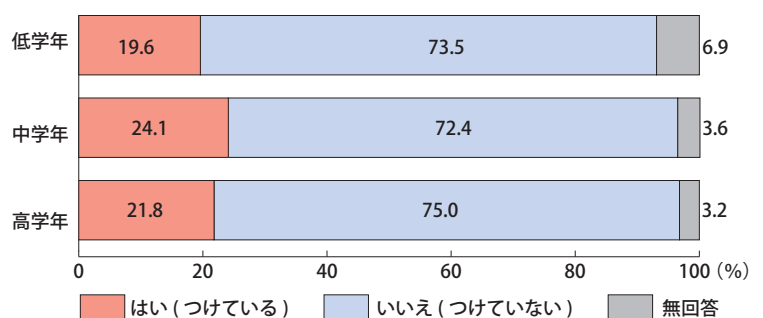
ルール決めと定期的な確認でおこづかいをお金の学びに

おこづかいを「子どもの金銭教育の場」とするなら、現金でもキャッシュレスでも、渡しておしまいという訳にはいきません。とくに、おこづかいの開始前に決める「おこづかいのルール」と、定期的に行う「使い方の確認」は、とても重要な役割を持っています。

おこづかいのルールは、保護者が使い方を管理するための指針となります。定額制か報酬制か、おこづかいで買う範囲とそれに合わせた金額、キャッシュレスと現金の金額の振り分け、足りなくなったときの対処、おこづかい帳の記録、保護者の管理方法など、決めておきたいことはたくさんありますが、あまり神経質にならず、いつでも見直せるくらいに考えておくとうよいと思います。大切なことは、子どもとよく話し合っ、子どもが納得するルールにすることです。話し合うことで、子どもなりにお金を使うことの意味を考え、お金の大切さを感じてくれます。それに、自分で決めたルールであればちゃんと守ろうという気持ちが強くなるものです。

保護者が定期的におこづかいの使い方を確認することも、子どもにお金の管理を学ばせる大切なポイントになります。前月のおこづかいの使い方を子どもと話しながら確認し、ルールに沿って翌月のおこづかいを渡せば、スムーズに行えると思います。おこづかいを確認するうえで、重要な役割を持つのがおこづかい帳です。保護者が管理するためだけに使うのではなく、子ども自身が自分のお金の使い方を顧みて反省するための教材になるからです。実際には、おこづかい帳をつけている

【図表4】 「おこづかい帳」をつけているか（小学生）



(出所) 金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査 (第3回) 2015年度調査」

子どもは小学生では2割前後にとどまっています【図表4】。おこづかい帳をつけることが苦手な子どもには、おこづかいを封筒などに入れて渡して、その中にレシートを入れることにしたり、買ったものをその都度袋に記入するなど、子どもができる範囲でかまいません。また、キャッシュレスの場合、パソコンやスマートフォンで使用履歴が分かって便利ですが、何に使ってお金が必要なくなったかを理解させるには、自分の手で記録させるほうが良いと思います。

キャッシュレスによるおこづかいの使い方について、保護者から増えている相談はゲーム課金ですが、私は、おこづかいのルール内でやり繰りが収まっているなら、頭ごなしに叱るべきではないと考えます。保護者がおこづかいを管理する範疇は、子どもと一緒に決めたルール内が原則です。ルール内であれば、どのように使っても、あまり口を出すべきではありません。そうは言っても必要な物を買うお金が足りなくなることは問題です。その場合には、子どもと話し合っ「ゲーム課金は毎月いくらまで」などルールを見直すといいでしょう。

キャッシュレス決済ツールはセキュリティと使う環境で選ぶ

世の中にはさまざまなキャッシュレス決済ツールがありますが、子どもが利用できるものとなると、種類はぐっと少なくなります。キャッシュレスの利用は「子どもにキャッシュレスを慣れさせる」ことが目的と考えれば、多機能やお得感よりセキュリティを重視し、子どもが使う環境を考慮して選択することを勧めます。

保護者が懸念する「使い過ぎ」を防止するためには、プリペイド型の利用が一般的です【図表5】。使い勝手を考えるとチャージできるものがよいです

【図表5】子どもが使えるチャージ対応のプリペイド型キャッシュレス決済

キャッシュレス決済ツール	特徴
交通系電子マネー	電車やバスなどの乗車券として使用できる。子ども用の発行には、保険証など子どもの本人確認ができるものが必要
流通系電子マネー	コンビニエンスストアなど流通系の企業が発行。ポイント優遇などのサービスを行っているケースが多い
国際ブランド付きプリペイドカード	国際カードブランドが提携。チャージ金額が限度額になり、国際ブランドの加盟店でクレジットカードと同様に利用できる
QR・バーコード決済アプリ	支払いは、スマートフォンにインストールしたアプリで、QRコードかバーコードを読み取る、または読み取らせる方法がある

が、オートチャージ機能が付いているものは、子どもが勝手にチャージしてしまうようにあらかじめ機能を外しておくとう安心です。また、利用停止や残高引継ぎなどが可能で、その手続きが分かりやすいツールを選ぶと、紛失や盗難にあつたときにも慌てないですみます。

子どもが利用する環境や目的によっても、ツールの選択が変わります。通学などの交通費であれば、交通系電子マネーが最適です。お菓子やジュース、漫画などの嗜好品であれば、コン

ビエンスストアなどが発行している流通系電子マネーを候補にしてもよいでしょう。

高校生になると、利用できるキャッシュレス決済ツールが増えます。さらに、2022年4月からは成年年齢引き下げにより、高校3年生でも、18歳になれば保護者の同意なくクレジットカードを作れるようになる見通しにあり、注意が必要です。クレジットカードの利用は「借金」であることやリボリングの仕組みを理解させないと、消費者トラブルにあう危険性が極めて高いと私は危惧しています。高校生の段階では、預貯金口座の残高の範囲内で即時払いされるデビットカードの利用をお勧めします。

失敗しても親子で仲良くキャッシュレスリテラシーを高める

キャッシュレス決済の複雑化する機能やサービスを理解するにはITリテラシーも必要です。保護者にとって、普及が進む今が慣れるときであり、

学ぶときではないでしょうか。秘けつは、「失敗を糧に、金銭感覚を身に付けてゆく」ことだと私は考えています。子どもと一緒に学ぶつもりで、やり直しがきく今のうちにどんどんチャレンジして、失敗しても親子で仲良くキャッシュレスリテラシーを高めてもらいたいと思います。

高木典子（たかぎ・のりこ）

1級ファイナンシャル・プランナー（CFP®）・DCプランナー・神奈川県金融広報アドバイザー・日本FP協会のパーソナルファイナンス教育インストラクター・キッズマネーステーションの認定講師。大手証券会社、外資系銀行勤務後、金融機関に積極的に足を運ぶような人以外にもお金のことを考える機会を持ってほしいという思いを持ち、ファイナンシャル・プランナーとして独立。金銭教育・投資教育の講師として、学校の授業、企業でのセミナー、勉強会などを行っている。



の
回
今
と
ま

- ★保護者の体験や実践はキャッシュレス決済教育の立派な教材。
- ★ルール決めと定期的な確認でおこづかいをお金の学びに。
- ★キャッシュレス決済ツールはセキュリティと使う環境で選択。